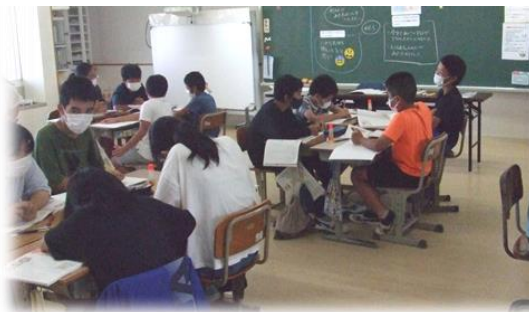


※6年生道徳：心を形に

授業者:



ぼくは、礼儀とは、見えるし心がよくなるものだと思います。理由は、見えないと伝わりづらいからです。見えて心がよくなるもので、自分も周りの人たちの心もよくなるので、礼儀はとってもいいと思いました。
 (6年)

礼儀というのは、最初、相手にされたら、ルー尔的にありがとうと返すと思いましたが、心を形にして、ありがとうやおはようというのは、私が思っていた理由とはちがって、あいさつは相手を安心させたり、元気にさせたり、形にして「本当にありがとう」と、お礼を体で表すということでした。
 (6年)

私は今まで礼儀は、目上の人とかえらい人にしたりするものだと思っていたけれども、礼儀は相手を思うて形にするものだと、この学習を通して、礼儀は相手と自分どちらとも心があたたかくなったりすると思いました。これからは、今回知ったことを日常生活に取り入れていきたいと思います。
 (6年)

私が思う礼儀は、「ありがとう」や「あいさつ」「敬語」だと思っていたけど、他にも相手の事を考えたりする事も礼儀に入っているんだなと思いました。さらに、「あいさつ」をする事で、相手の心や気持ちをあたたかくするから、私が「あいさつ」をする事で、相手をあたたかくさせているんだなと感じました。
 (6年)

私は、礼儀をするには、形に出してしっかり相手に伝えることが大切なんだと分かりました。私は、それを心まえて、伝える側だけが形に出すのは少し違うと思いました。伝える側が形に出してくるだけじゃなく、それを受ける側も形に出さないと、伝える側に全く届かないと思いました。なので、私は、伝える側の時も、受ける側の時も形にして伝えたいです。
 (6年)

学習する前は、礼儀について自分はわかっていると思っていたけど、実はぜんぜんわかっていなかったと思った。でも、学習したあとは、礼儀は形で表さないと礼儀にならないとわかった。授業を終えて考えてみた事は、もしも、その礼儀が形に表されていないときにはどうなるかなと。ありがとうと友達に言うときに、手をあわせるだけで声を出さずやると、気持ちが相手に伝わらないかもしれない。
 (6年)

私は学習する前、あいさつを返してくれないのなら、他の方法をすればいいと思っていましたが、後から考えると、あいさつをする時に、心がこもったあいさつをしたから、物語のあのおばあさんに届いたんじゃないかと思ってきました。そして、この授業で、礼儀ってというのは、相手を思う気持ちを形にするだけだと思っていたのですが、本当の「礼儀」というのは、相手に気持ちが届いて、相手も自分もうれしくなれるというのが、本当の「礼儀」だと思いました。
 (6年)

ぼくは、最初の考えは、あいさつをしなくなると、ちょっとの人しかあいさつをしないと聞いていたけど、今、授業をおえて思ったことは、相手を思う心をもって形にすることがあいさつだと思った。みんながあいさつをしなくなったら、みんなの心が暗くなっていくから、礼儀は大切だと思う。ぼくは、あいさつをするときは、目と目をあわせてやるように心がけていく。
 (6年)

自分からあいさつをすると、自分も心が気持ちよくなったり、相手も気持ちよくなるし、仲がよくなったりする。授業をして、あいさつをすると、自分と相手の仲や、ちょっとの心の支えになったりすることがわかった。礼儀はいいことだと思った。相手を思うことは、形になっていることだとわかった。
 (6年)

礼儀とは、ただ「あいさつ」をすることだと思っていたけど、でも、礼儀とは、あいさつに「心がこもって形になった」ものを礼儀というわかった。ぼくは、どうやって人は、気持ちのこもったあいさつとわかるのだろうと考えてみると、心がこもっていないあいさつだと、自分の心にもひびかないと思った。例えば、たんじょう日におめでとと言われて照れてしまうのは、相手がちゃんと心をこめて言ってくれているのがわかるから。この事と同じだと思いました。心をこめる=礼儀だと感じました。
 (6年)